

原茂樹

〈40〉

大事な人、
大事なふるさとのために
生きるのもいい



SHIGEKI HARA

1976年生まれ。日田高卒。映画や音楽に魅せられ、福岡市内でバンド活動を行い、レンタルショップやカメラ店でのアルバイトを経験。2009年に帰郷し「日田シネマテーク・リベルテ」のオーナーに。63席の小さな映画館にはカフェや全国のアーティストの作品展示コーナーがあり、多彩なイベントも開催するなど、ユニークな取り組みで知られる。



コーヒーを飲みながら映画を鑑賞。ロビーにはシャツや本、CD、焼き物などがずらりと並び、上映作にちなんだイベントや陶芸家によるワークショップ、音楽ライブなども開かれる。日田唯一の映画館「リベルテ」はフランス語で「自由」を意味する。それだけに、訪れる人もそれぞれの思いでゆったりとくつろいでいるようだ。「たくさんの人でにぎわう場所じゃなくていい。ここに来る一人一人が、明日も頑張ろうと思えたり、気持ちが悪れたり、ほっとしたりしてくれる。そんな場所になったらいいですね」

大学受験のため京都に向かう列車の窓に映った光景が心の転機になった。外にはブルーシートに覆われた家々。1995年、阪神大震災直後の被災地だ。眺めているうちに「生きるって何だろう」とふ

と思った。周囲に勧められ、一時は教師の道を目指した。受験はその第一歩。「でもこんな思いを抱いても思い切って列車を降りられない人間が、人に教えることができるのか」「自分のためだけに生きていいのか」。もやもやはずっと心に残った。「みんなと違っていい。自由に生きてみたい」。思いは日ごとたつごとに膨らんでいった。

受験をやめ、その後、自立のために福岡市のレンタルショップなどでアルバイトを始めた。大好きな映画や音楽に触れていられる場所だったからだ。「音楽は一生付き合っている文化。映画も人生を語ってくれるから」。仕事の傍ら、ライブハウスでのバンド活動も10年ほど続けた。そんな中で知り合った人から、ふるさとの映画館

が閉鎖の危機にあると聞いた2009年、いても立ってもいられず帰郷。リベルテの運営を引き受けた。「映画館は日田の文化の一つ。なくなったら一生後悔すると思った」。リベルテは今、映画を核にした多様な文化が交わる場に育っている。

日田は歴史や自然が物語るように素晴らしいまち。この心地よい環境、風情を失ってほしくないと思う。だからこそ大きな施設を造ったりして人を「集める」のではなく、人が「集まる」まちになってほしい。そんなまちづくりのリベルテも一役買うつもりだ。

「自分が大事という人も多いけど、大事なふるさと、大事な人のため生きてもいい。これまで好き勝手にやってきた人生だから。これからは人のために頑張ってもいいかな」。